

## われわれの敵

われわれの敵とは何か。生きた人間ではなく、野獣と亡霊であり、多くの生きた人間の体にくっついてある野獣と亡霊である。

子どものころ、『聊齋志異』や『夜談随録』の物語を聞いて、闇夜はいつも狐の化物や僵尸の襲来が恐かった。いまになって、この恐怖はなくなったが、白昼にいつも狐の化物や僵尸の出現を見る。これはもっと恐い。街を歩いていたり、路傍に立ったりして、道行く人の顔色をうかがい、彼らの声を聞いては、いつも妖気を発散する。これはもちろん“画皮”ではないとは、誰も保証できない。われわれは自分の安全のために、連中に対して“防御戦”をやらざるを得ない。

“みんな、気をつけろ、こんなふうにならぬ神経過敏になって行くと、気狂いにならないか——あるいは君がこう言うのは、もうすでに少し気狂いの気味があるかもしれない”と言う人がある。大丈夫、わたしのような落ち着いた人間がどうして気狂いなんかになろう。ひとを見ればしっぽがありはしないかとか身体に白い毛が生えてやしないかと疑心暗鬼になるのは、確かに気狂いのやることらしいが、わたしはそうではない。わたしは新式の鏡で人間の群の中からそうした異物を見別けて駆除しようとするのだ。しかもこの方法は決して面倒ではない。まったく何の神秘もなく、われわれはただそいつを見さえすればよい。もし人を見て眼を見張って歯をむき出し、口からよだれをたらし、取って食おうかという気味があれば、必ず“そいつ”だ。社会で天地君親師、銀行家、ナンパ党、あるいは道学者などと称していようとも。

ダーウィン等の言うところでは、われわれと虎狼狐狸の類とは言えはもともと遠い親類関係があるそうで、われわれの祖先は一人として名前を過去帳に登録していないものはない。だからわれわれとさまざまな亡霊などとは多少とも代々のよしみがなくはない。こうした話は当然まちがってははいない。だが遠い親類であろうが、代々のよしみであろうが、かれらは要するに芋蔓式に出て来てわれわれを煩わすべきではない。遠い親類の方々がもしよしみを言われるなら、山林で出会った時に限り、ヒゲでもしごき、あるいはしっぽを振りながら、われわれに挨拶してくれるべきで、髑髏を被ってわれわれの間でうろうろする必要はない。代々よしみのある方々も静かに草葉の陰に安らぐべきで、偶にわれわれの夢で会うのは、面白いが、もしいまのように

“<sup>うまれかわり</sup>重来” (Revenants) に化けて、白日の下に姿を現すなら、それこそほんとうにひとの視聴を驚かすだろう。彼らがこんなでたらめをやって、われわれに害を与えようとする以上、われわれももう遠慮してはられない、正義と人道、および平等の名によって防御手段を取るほかない。

昔ヨーロッパの教会と政府は異端を救うために、なかなかよい方法を使ったそうだ。つまり彼らの肉体を焼いてしまって、その魂が地獄に落ちないようにしたというのだ。これは実に心の籠ったやり方だが、ただ残念なことにわれわれは採用できない。というのはわれわれの目的は正反対であるからである。われわれはそれが依附している肉体から依附している物を追い出そうとしている。だから正反対の方法を使わなければならない。われわれはせいぜい桃の枝に柳の枝、芦

の鞭や蒲の鞭をたくさん手に取って、力いっぱい顔に妖気の出ている人間の体をひっぱたき、化けた野獣が原形を現わすように、憑いた亡霊が患者から離れるよう、借用された体躯を残して、落し主をさがして受取ってもらうようにするのだ。こうして追い出したものは、われわれも“聚めて之を殲<sup>ほろぼ</sup>そ”うとは思わない。ひゅーと一声瓶の中に吸込んで丹書でちゃんと封をして蒸したり煮出したりするという方法はいまでは伝承が途絶えたようで、少くともわれわれは効果的な使い方が解らないし、しかも天下は広く、万牲百鬼は汗牛充棟していて、実にやってもやってもきりがなからだ。だからわれわれは上天の生を好む徳を尊重して、決してとことんまで追求せず、ただ獣には住処の穴に行き、亡霊には墓穴に帰ってもらい、それぞれが生業に安んじ、もう互の邪魔をしなれば、お仕舞にして、連中の行くにまかせればよいのだ。

生きている人間については、誰もわれわれの敵ではない。必ずしも全部がわれわれの友人ではないけれども、——実際、生きている人間はもうあまりにも少くなっているのだ。少なすぎてけんかをして何のおもしろ味もないほどなのだ。亡霊をやっつけた後になって、（もしそういう日が来れば、）もし興が乗れば、酒を一杯飲んで、腕をまくり、腕比べをするのもよからう。（試合に勝てば、自ずと美人に好かれる等々の事があるろうが、それも悪くはない。だがそれは『アイ・ヴァンホー』の情景であって、いまではまだ『西遊記』だろう。）（民国十三年十二月）

※初出：1924年12月22日『語絲』第6期